

安全データシート



1. 化学品及び会社情報

製品名 :
製品コード : データなし。
化学物質を特定する他の方法 :

供給者を特定する情報 :

本SDS担当者の電子
メールアドレス :

1. 化学品及び会社情報

緊急連絡用電話番号
(受付時間) :

推奨用途及び使用上の制限

意図される使用 : 拭く、さまざまなサーフェスまたは構成部品のクリーニングします。

製品タイプ : 固体。

発行日/改訂版の日付 : 2019/02/15

前作成日 : 2017/01/15

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : 可燃性固体 - 区分1
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 - 区分2A
生殖毒性(受精能) - 区分2
生殖毒性(胎児) - 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)(中枢神経系(CNS)) - 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)(気道刺激性) - 区分3
特定標的臓器毒性(単回ばく露)(麻酔作用) - 区分3
特定標的臓器毒性(反復ばく露)(血液系、肝臓、呼吸器系、脾臓) - 区分1

GHS ラベル要素

危険有害性の絵文字 :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 可燃性固体。
強い眼刺激。
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。
臓器の障害。(中枢神経系(CNS))
呼吸器への刺激のおそれ。
眠気又はめまいのおそれ。
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。(血液系、肝臓、呼吸器系、脾臓)

注意書き

安全対策 : 使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
指定された個人用保護具を使用すること。保護手袋を着用すること。保護眼鏡または保護面を着用すること。熱、火花、裸火および高温のものから遠ざけること。一禁煙。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。

応急措置 : 気分が悪い時は、医師の手当てを受けること。ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の手当てを受けること。

保管 : 施錠して保管すること。

廃棄 : 内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。

2. 危険有害性の要約

他の危険有害性 : 認知済みのものは無し。

3. 組成及び成分情報

化学物質／混合物 : 混合物

成分名	%	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法)	労働安全衛生法
2-プロパノール	70	67-63-0	2-207	2-(8)-319

本製品の補足的な成分の中には、現在の知識の範囲および該当する濃度において、このセクションで報告が義務づけられている健康または環境に対して有害危険性であると分類される成分は含まれていません。

暴露限界がある場合、セクション8に記載されている。

4. 応急措置

必要な応急処置の説明

- 眼に入った場合** : すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも20分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。
- 吸入した場合** : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。
- 皮膚に付着した場合** : 多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。少なくとも20分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。
- 飲み込んだ場合** : 水で口を洗浄する。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。

最も重要な急性および遅発性の症状/影響

起こりうる急性毒性

- 眼に入った場合** : 強い眼刺激。
- 吸入した場合** : 中枢神経機能低下を引き起こす可能性がある。眠気又はめまいのおそれ。呼吸器への刺激のおそれ。
- 皮膚に付着した場合** : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
- 飲み込んだ場合** : 中枢神経機能低下を引き起こす可能性がある。

短期暴露

- 潜在的な遅発性作用** : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

過剰暴露の徴候/症状

- 眼に入った場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
痛み及び刺激
流涙
発赤
- 吸入した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
気道の刺激
咳
吐き気または嘔吐
頭痛
眠気/疲労
浮動性のめまい/回転性のめまい
意識不明
胎児体重の減少

4. 応急措置

- 子宮内胎児死亡の増加
骨格の外表奇形
- 皮膚に付着した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
胎児体重の減少
子宮内胎児死亡の増加
骨格の外表奇形
- 飲み込んだ場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
胎児体重の減少
子宮内胎児死亡の増加
骨格の外表奇形

必要に応じた速やかな医師の手当てと必要とされる特別な処置の指示

- 応急措置をする者の保護** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。
- 医師に対する特別な注意事項** : 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。
- 特定の治療法** : 特定の治療法はない。

有害性情報を参照(セクション11)

5. 火災時の措置

消火剤

- 消火剤** : 粉末化学消火剤、炭酸ガス、ウォーターズプレー、泡消火剤を使用する。
- 不適切な消火剤** : ウォータージェットか水によって基づく消火器を使用してはいけない。

火災時の措置に関する特有の危険有害性 : 可燃性固体。

- 有害な熱分解生成物** : 分解生成物には以下の物質が含まれることがある:
二酸化炭素
一酸化炭素

消防士用の特別な防具と予防措置 : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。危険でなければ、火災現場から容器を移動させる。ウォーターズプレーを使用して火気にさらされた容器を冷温に保つ。

消火を行う者の保護 : 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェイス部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 緊急時要員以外の人員用** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。全ての発火源を遮断する。危険地域には、発火信号、煙草、火焰機器を持ち込まない。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。適切な個人保護装置を着用する。
- 緊急時の責任者用** : 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報に注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。

環境に対する注意事項 : 製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 漏出** : 物質を吸い取るか拭き取り、ラベル表示した廃棄容器に收容する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項

保護措置

：適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。妊娠中は暴露を避ける。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。摂取してはならない。換気が十分な場所でのみ使用する。十分な換気がない限り、保管場所および密閉された空間に入らないこと。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。熱、火花、炎、その他の発火源から離れた場所で保管ならびに使用する。火花を発生させない工具を使用すること。容器が空でも製品の残留物が残存して有害危険性がある。容器を再利用してはならない。

一般的な職業衛生に関する助言

：本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。

安全に保管するための注意事項

：現地の法規制に従って保管する。隔離され認定された場所に貯蔵する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。施錠して保管すること。あらゆる発火源を除去する。酸化性物質に近づけない。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

曝露限界

成分名	曝露限界値
2-プロパノール	日本産業衛生学会(日本、5/2017)。 OEL-C: 400 ppm OEL-C: 980 mg/m ³ 労働安全衛生法(日本、4/2017)。 管理濃度: 200 ppm 8 時間。

適切な技術的管理

：換気が十分な場所でのみ使用する。ユーザーの作業により粉塵、ヒューム、ガス、蒸気またはミストが発生する場合は、作業行程の囲い込み、局所的排気通風装置あるいはその他の技術的制御により、作業者の空中に浮遊している汚染物質への暴露を全ての推奨値あるいは法定限度以下に保つこと。ガス、蒸気あるいは塵埃の濃度を曝露限界以下に保つためには技術的な管理も必要となる。防爆型換気装置を使用する。

環境曝露管理

：換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。

個人の保護措置

衛生対策

：化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙、およびトイレの使用前、さらに作業時間の最後に、両手、両腕の肘から手首までの部分、また顔を十分に洗う。汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。

呼吸用保護具

：推奨: 蒸気マスク。

手の保護具

：リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。

保護眼鏡/保護面

：推奨: 安全眼鏡。

皮膚の保護

身体保護具

：作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならず、さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。静電気が引火する可能性がある場合には、帯電防止防護服を着用しなければならない。静電放電から最大限に保護するためには、保護具に帯電防止オーバーオール、長靴および手袋が含まれていなければならない。

その他の皮膚保護具

：この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态	: 固体。[固体液体（前接液ワイパー）を含んでいます]
色	: 無色の液体で白基板。
臭い	: 消毒用アルコール。
臭いのしきい	: データなし。
pH	: データなし。
融点	: データなし。
沸点	: データなし。
引火点	: 密閉式: 20°C (68°F)
燃焼点	: データなし。
蒸発速度	: データなし。
燃焼性(固体, 気体)	: 次の物質および条件の存在下で非常に引火性: 裸火、火花、および放電 および ショックおよび機械的衝撃。
爆発(燃焼)限界の上限および下限	: 下限: 2% 上限: 12.7%
蒸気圧	: データなし。
蒸気密度	: データなし。
比重	: データなし。
溶解度	: 以下の物質に不溶性: 冷水 および 温水。
n-オクタノール/水分配係数	: データなし。
自然発火温度	: 399°C (750.2°F)
分解温度	: データなし。
粘度	: データなし。
流出時間(ISO 2431)	: データなし。

10. 安定性及び反応性

反応性	: この製品またはその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。
化学的安定性	: 製品は安定である。
危険有害反応可能性	: 通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	: いかなる発火源（火花あるいは炎）にも近づけてはならない。
混触危険物質	: 次の物質と非常に反応性あるいは危険配合製: 酸化性物質。
危険有害な分解生成物	: 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

毒物学的作用に関する情報

急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
2-プロパノール	LD50 経皮 LD50 経口	ウサギ ラット	12800 mg/kg 5000 mg/kg	- -

刺激性/腐食性

製品 / 成分の名称	結果	種類	スコア	暴露時間	観察
2-プロパノール	眼 - 中刺激剤 眼 - 中刺激剤 眼 - 強刺激剤 皮膚 - 軽度の刺激性	ウサギ ウサギ ウサギ ウサギ	- - - -	24 時間 100 mg 10 mg 100 mg 500 mg	- - - -

感作

利用できるデータがない。

変異原性

利用できるデータがない。

発がん性

利用できるデータがない。

生殖毒性

利用できるデータがない。

催奇形性

利用できるデータがない。

特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)

名称	カテゴリ	標的臓器
2-プロパノール	区分1 区分3	中枢神経系 (CNS) 気道刺激性 および 麻酔作用

特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)

名称	カテゴリ	標的臓器
2-プロパノール	区分1 区分2	血液系 肝臓、呼吸器系 および 脾臓

呼吸に対する危険有害性

利用できるデータがない。

可能性のある暴露経路についての情報 : 皮膚接触。眼に入った場合。吸入。摂取。

起こりうる急性毒性

- 眼に入った場合 : 強い眼刺激。
- 吸入した場合 : 中枢神経機能低下を引き起こす可能性がある。眠気又はめまいのおそれ。呼吸器への刺激のおそれ。
- 皮膚に付着した場合 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
- 飲み込んだ場合 : 中枢神経機能低下を引き起こす可能性がある。

物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状

- 眼に入った場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:
痛み及び刺激
流涙
発赤

11. 有害性情報

- 吸入した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
 気道の刺激
 咳
 吐き気または嘔吐
 頭痛
 眠気/疲労
 浮動性のめまい/回転性のめまい
 意識不明
 胎児体重の減少
 子宮内胎児死亡の増加
 骨格の外表奇形
- 皮膚に付着した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
 胎児体重の減少
 子宮内胎児死亡の増加
 骨格の外表奇形
- 飲み込んだ場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
 胎児体重の減少
 子宮内胎児死亡の増加
 骨格の外表奇形

遅発性および即時性の影響ならびに短期および長期の暴露による慢性的な影響

短期暴露

- 潜在的な即時性作用** : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
潜在的な遅発性作用 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

長期暴露

- 潜在的な即時性作用** : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
潜在的な遅発性作用 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

健康への慢性効果の可能性

- 概要** : 長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害。
発がん性 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
変異原性 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
催奇形性 : 胎児に障害を与える疑い。
発育への影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
生殖能力に対する影響 : 生殖能に障害を与える疑い。

毒性の数値化

急性毒性の推定

経路	急性毒性推定値 (ATE値)
経口	7500 mg/kg

12. 環境影響情報

毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	暴露時間
2-プロパノール	急性 EC50 10100 mg/L 真水 急性 LC50 1400000 µg/l 海水 急性 LC50 4200 mg/L 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna 甲殻類 - Crangon crangon 魚類 - Rasbora heteromorpha	48 時間 48 時間 96 時間

残留性・分解性

利用できるデータがない。

12. 環境影響情報

生体蓄積性

製品 / 成分の名称	LogP _{ow}	BCF	可能性
2-プロパノール	0.05	-	低

土壤中の移動性

土壌/水分係数(K_{oc}) : 利用できるデータはありません。
 移動性 : データなし。

オゾン層への有害性 : 該当せず。
 その他の悪影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要があります。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。

14. 輸送上の注意

	UN	IMDG	IATA
国連番号	UN3175	UN3175	UN3175
品名(国連輸送名)	引火性液体を含有する固体、N.O.S. (2-プロパノール)	引火性液体を含有する固体、N.O.S. (2-プロパノール)	引火性液体を含有する固体、N.O.S. (2-プロパノール)
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	4.1 	4.1 	4.1 
容器等級	II	II	II
環境有害性	該当せず。	該当せず。	該当せず。

使用者のための特別な予防措置 : 使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。製品輸送者が事故の際に対応できるようにする。

15. 適用法令

消防法

カテゴリ	物質名/種類	危険性区分	注意喚起語	指定数量
第二類 第四類	引火性固体 以下を含む物質: までの飽和一価アルコール	III データなし。	火気厳禁 データなし。	1000 kg 400 L

消防法 - 妨害物質 : 非該当

指定可燃物 : データなし。 **指定数量** : データなし。

15. 適用法令

海事安全

危険物の海上運送規制に関する通達

記載された成分なし。

容器等級

記載された成分なし。

労働安全衛生法

特定化学物質の用途

記載された成分なし。

ラベルに関する規定

成分名	%	状況	政令番号
2-プロパノール	≥50 - ≤75	該当	494

名称等を通知すべき危険物及び有害物

成分名	%	状況	政令番号
2-プロパノール	≥50 - ≤75	該当	494

発がん性物質

記載された成分なし。

変異原性物質

記載された成分なし。

腐食性液体

: 非該当

労働安全衛生法: 別表第一

: データなし。

鉛中毒予防規則

: 非該当

四アルキル鉛中毒予防

: 非該当

製造の許可を受けるべき有害物 : 非該当

製造等が禁止される有害物等 : 非該当

危険物 : 非該当

有機溶剤中毒予防規則 : 第2種

化審法

成分名	%	状況	政令番号
2-プロパノール	≥50 - ≤75	重要性評価	102

毒物及び劇物取締法

記載された成分なし。

化学物質排出把握管理促進法(PRTR)

記載された成分なし。

16. その他の情報

分類を行うために使用する手順

分類	正当化
可燃性固体 - 区分1 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 - 区分2A 生殖毒性(受精能) - 区分2 生殖毒性(胎児) - 区分2 特定標的臓器毒性(単回ばく露)(中枢神経系(CNS)) - 区分1 特定標的臓器毒性(単回ばく露)(気道刺激性) - 区分3 特定標的臓器毒性(単回ばく露)(麻酔作用) - 区分3 特定標的臓器毒性(反復ばく露)(血液系、肝臓、呼吸器系、脾臓) - 区分1	専門家の判断 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法

履歴

印刷日	: 2019/02/15
前作成日	: 2017/01/15
バージョン	: 4
作成者	: KMK Regulatory Services Inc.

注意事項

危険有害性の評価は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。すべての化学製品には、未知の危険有害性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。